

第1回庁舎等建設に関する協議会

日 時 令和4年5月10日（火）13：17～15：26

場 所 市役所本庁舎第一会議室

参加者

市議会：

座 長：五十嵐京子、副座長：村山ひでき

清水がく、吹春やすたか、岸田正義、沖浦あつし、白井亨、水谷たかこ、古畑俊男、坂井えつ子、遠藤百合子、湯沢綾子、鈴木成夫、安田けいこ、片山かおる、たゆ久貴、渡辺ふき子、小林正樹、宮下誠、斎藤康夫、渡辺大三、水上洋志、森戸よう子（議席番号順、敬称略）

市：

副座長：藤本庁舎建設等担当部長

西岡市長、小澤副市長、前島庁舎建設等担当課長、後藤公共施設マネジメント推進担当課長、伊藤福祉会館等担当課長、山崎建築営繕課長

事務局：

福井企画政策課主査、奥企画政策課主査、郷古企画政策課主査、小林議会事務局次長、安藤議事係主任
傍聴者 1人

◎五十嵐座長 皆さんこんにちは。第1回庁舎等建設に関する協議会を開催いたします。

開催にあたりまして、私の方からこれまでの経過等を簡単にお話しさせていただきます。令和4年第1回定例会におきまして、西岡市長から庁舎等複合施設建設について、これまでの設計及び建設の時期を大胆に見直すことも含めて協議するため、議会との意見交換の場の設定を求められたことから、検討の場のあり方について議会として検討を重ねた結果、市長と議長が協定書を締結する形で、庁舎等建設に関する協議会を設置し、会則を定め、新たな協議の場を設置することといたしました。

4月28日に協定書が締結されました。目的は市長が着工可能な成案を得られるよう、市長と市議会との意見交換を通じて本事業の進捗を図るため、論点を整理することとし、設計に関する事、建設の時期に関する事、建設コストに関する事等について協議をしております。期間は令和4年10月31日まで約半年間としておりますので、スピード感を持って進める必要があると思っておりますのでございます。

座長は私五十嵐がやらせていただくことになりましたので、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。また副座長として村山ひでき議員と藤本庁舎建設等担当部長のお二人の方が選出されておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

今日は初めての協議会の開催でございますので、各会派から協議項目に沿ってのご意見を開陳していただきたいと思っております。さらに今日時点での各会派のご意見へのご質問等を受け、また開催に当たった現時点でのご質問やご意見などを出していただき、終了したいと思っております。

どうぞご協力をよろしくお願い申し上げます。それでは資料が提出されておりますので、まず資料の説

明からお願いいたします。

◎前島庁舎建設等担当課長 本日の資料になります。事前にお配りしておりますが、協議会の次第。資料1として庁舎等建設に関する協議会設置に係る協定書。資料2にといたしまして庁舎等建設に関する協議会会則。資料3といたしまして各会派からのご意見ということでまとめさせていただいたものになります。

協議会の資料また会則につきましては、各会派の皆様方に事前にご承認いただいておりますので、会則についても協定書の締結日と同日の4月28日とさせていただいておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

◎五十嵐座長 資料の説明がありましたので、早速各会派からの意見をうかがってまいりたいと思います。まず最初に自由民主党・信頼の小金井からよろしくお願いいたします。

◎清水議員 自由民主党・信頼の小金井の会派意見を申し述べたいと思います。

まず設計についてです。基本的に書いてあることを発言いたします。現行の基本設計については、コスト削減の視点から設計変更も含めて検討すべきということです。

建設時期については、まず可能な成案を検討し、財政的根拠も見出すのに時間を要する一方で、早期着工を目指すためにも、清掃関連施設後の着工を目標と定め、作業を進めていくべき。また、早期竣工を目指すために庁舎と福社会館の同時着工をすること。工期短縮コスト削減も含めて検討すべき。

建設コストについて私たち会派は最初から指摘をしてきました。建設事業費については、コロナ禍における本市の財政状況を考慮し、できるだけ簡素な建物にし、私たちの子供たちの世代への財政負担の軽減を図る努力をしていくべき。

その他です。庁舎等建設に関する協議会での各会派の意見をもとに市長が着工可能な成案を提示するべきと考えておりますので、ここに書いてありますけれども、私たちが最初から言ってきたことは財政的に問題がない建設費をまずは見出すべきだということもありますので、設計変更ありきということではなく、まず財政的に問題がない建設費をまずは見出していくべきと考えております。

◎五十嵐座長 次にみらいのこがねい、沖浦さん。

◎沖浦議員 会派みらいのこがねいの意見を述べます。

設計について、会派みらいのこがねいは設計条件の決定過程を尊重してきた立場であり、基本的には現設計で了承しています。建設敷地部分や施設配置など設計の根幹部分に影響を与える見直しは、基本設計はもとより、プロポーザル選考まで遡らなければならず、市民に説明ができないと考えているが、コストダウンや利便性の向上につながるような提案があれば検討したいという考えです。

建設時期について会派みらいのこがねいは、清掃関連施設の撤去時期これが令和7年度予定をもって得られる建設コストの削減効果は、その間に支払うことになる第二庁舎の賃借料これが仮に3年間待つとした場合、その間の賃借料7億円強に達しないこと、さらに建設資材価格の高騰が収まる見込みがないことを考慮すれば、建設時期の延伸はむしろハードルは高くなる一方である。一日も早く建設着工を目指すべきであるという考えでございます。

建設コストについて会派みらいのこがねいは、現設計で了承する立場である。仮にコストダウンの方策を考えるのであれば、本協議会では床面積削減の検討に絞るべきである。ただし、あくまでも設計の修正

として収まる範囲であり、異なる形の建物をイメージしているわけではない。床面積削減の検討は庁舎フロアに限らず、議会棟もすべき。さらに建設単価が高いのは新福祉会館であることも認識すべきであり、新福祉会館について検討対象に含めるかどうか整理して欲しいという考えでございます。

その他についてです。会派みらいのこがねいは、専門家が検討した Cre-2 案が最善と考えていたが、それを変更したのは市と議会の政治的な判断であった。仮に専門家を招致して参考にするのであれば、現設計についてではなく、建設資材価格の動向等に精通しているの方がよい。また最終的な建設コストは入札の結果得られるもの、そして積算金額はその時期の建設資材価格から算出されるもので、実際の入札価格とは異なることを認識すべきであるという考えでございます。

◎五十嵐座長 続きまして、日本共産党小金井市議団、水上さん。

◎水上議員 日本共産党の会派意見を述べさせていただきます。

設計について基本設計へのパブリックコメントなどで寄せられた市民意見を尊重し、設計に反映させることを検討すべきだということが一つです。パブリックコメントで寄せられた主な意見は、広い広場を設置してもらいたいということ、耐震構造の統一、建設コストが一番多い回答だったかなというふうに思いますので、その点をぜひ尊重していただきたいということです。I字型の簡素な建物とし、浸水対策を万全なものとして、敷地南側におおむね 3,000 m²の広場を設置。庁舎、仮称新福祉会館とも免震構造で統一する。地下駐車場をやめて地上に駐車場を設置することなどを提案するということです。

建設時期について、昨今の資材高騰などの社会経済状況を見極める必要があると考えています。清掃関連施設を前提にした建設計画ではなく、清掃関連施設を撤去した後に建設着工するスケジュールを検討すべきだと考えています。そうすることにより設計の自由度も上がることになり、コストダウンの検討なども可能になってくるというふうと考えています。

建設コストについて、建設費は少なくとも当初の基本設計契約時の 75 億円を目安として建設費の削減を図るべきだと考えています。ある程度の財源的な目安を持って建設を行う必要があるというふうに考えておりますので、基本設計契約時 75 億円を目安ということで、建設コストについては考えていく必要があるということです。将来の市民生活の影響を最小限にするため、現在の建設費の 10%から 20%のコストダウンを行うことが必要だと考えています。そのため、地下駐車場をやめること。地下を掘ることが一番お金がかかるという指摘もありますので、こういうことや工事における施工性の向上など検討することを提案します。そして借金を減らす努力を行うべきだということを意見として申し述べたいと思います。

◎五十嵐座長 続きまして小金井市議会公明党、宮下さん。

◎宮下議員 小金井市議会公明党の意見を表明します。

まず設計です。本来、これまで行政として責任を持って積み重ねてきた検討結果をベースに、問題点を解決しながら設計を考えるのが妥当であるが、今回市長自らそれを破棄すると受け取れる状況を設定されたことから考えれば、行政の専門的知見を議会と垣根なく意見交換しながら、限られた時間の中で災害対策や ICT など、これまでの論点整理や今後のアフターコロナを踏まえた可能な限り合意できる点を検討してみることも考えられる。

次に建設時期について。建設時期を見定めることは、第二庁舎の契約事務やさまざまなリース契約ほか

の事業進捗に大きく影響が出るため、重要となる。その設定は、健全な財政フレームの中で可能な建設コストであるか判断するべきだ。資材の高騰もあることは承知したうえで1年程度を見送ることがベストか、清掃関連施設がなくなってからを見越して設計見直し着工することがベストなのか、専門的知見をうかがいながら、あらゆる可能性の中から最もよい時期を見定めるべきだと思います。

次に建設コストです。公明党は早期建設とともに市民生活に影響のない建設も求めてきたところです。本事業は、コロナ禍における100億円、そのうち借金は66億円です。100億円を超える事業であります。当然、財政面での市民の納得できる明快な回答が必要になる。やみくもに建設費用を下げればよいとは考えていないが、財政調整基金の見通しを含め、財政フレーム上問題のない建設計画を市長は責任を持って再提案するべきだと考える。

◎五十嵐座長 続きまして小金井をおもしろくする会、白井さん。

◎白井議員 小金井をおもしろくする会の意見を開陳いたします。

まず設計についてです。これまでは早く建てるということを念頭に、設計についてはやむなしと考えてまいりました。現在も基本的にその考えには変わりはありません。しかし、そのうえで改めて設計について意見を言うとなれば以下の3点となります。一つ目は耐震構造の統一。二つ目は徹底的な自治体DX推進で面積を減らす。例えば、行かなくていい庁舎としてのサービス設計や、可能な限りのリモートワーク推進で執務面積を減らす。こういう検討をすべきではないかと。三番目としましては、広場はできるだけ大きく取ることで、これについては3年前にこの指摘をしてきたんですが、一向に周辺環境を含めた対策が示されないため書いております。

次に建設時期であります。一致できる最短のスケジュールで建設することを望みます。補足としまして協議の進め方ですけれども、次の建設コストのところでは書いていますが、予算については、いくら出せるかということと、いつまでに建てるかということを決めたうえで内容を詰めていくのが至当な進め方ではないかと考えます。

最後に建設コストです。現設計のまま進める場合は、中期財政計画上の期間、またその後の財政運営として財政調整基金が小金井市の標準財政規模の10%を確保し続けることができるようにすることを求めたいと思います。これは緊急時の対応及び市民生活への影響を最小限にするためという考えです。仮に議会の多数意思で設計をやり直すのであれば、予算枠の上限を決めた範囲内で可能な内容の庁舎等を建てるしかならないと考えます。小金井市の財政状況でいくらなら建てられるのか、いわば合意を得られるのか、これが共通目線にならないと同じことの繰り返しになるのではないかと考えます。

◎五十嵐座長 続きまして市民といっしょにカエル会、片山さん。

◎片山議員 まず設計に関してなんですが、耐震と免震の複合の見直し検証するべきであるということと、浸水対策の見直し。これも検証すべきである。そして動線、駐車、駐輪、危険のない憩いの広場等敷地全体の使い方についての再検討をすべきであると考えます。また、感染症対策の自然換気対応として窓の開閉について、こちらも再検討をすべきだと考えております。

建設時期ですが、清掃関連施設の移転や設計の見直し状況を見て、適切な時期を検討するべきであると考えております。

建設コストですが、資材高騰の関係もあると考えていますが、当初予定の建設費の中で収まるよう検討すべきであると考えております。

その他としまして、できる限り基本計画に沿った建築となっているかの検証が必要ではないかと改めて考えております。基本理念にある自治の要となる市民のための庁舎、市民に開かれた議会機能を持つ庁舎となっているのか。例えば議場を1階に設置して、市民が参加しやすくする、議場が使用されないときに市民利用しやすくするなど、開かれた議会であると示すことも検討の一つになると考えております。

◎五十嵐座長 続きましてこがねい市民会議、斎藤さん。

◎斎藤議員 まずすみません、各項目 200 文字という認識がなかったものですから、協定書の第3条全体を 200 文字という形でまとめてしまいました。

この実施設計完了までの計画の事実関係に関する適否を再確認すべきであると考えております。この実施設計完了の経過で言えば、プロポーザルコンペ、基本設計、実施設計と進んでおりますけれども、プロポーザルの案に関しては議会の意見を尊重したうえで設計条件を設定してございまして、その設計条件が変わったのであれば、それぞれの会派が当初はこう考えていたけれども、このように考えが変わったんだということを明らかにしていくべきである。それと建設時期がずれた場合のリスクですね。第二庁舎のことも含めた形で考えていかなければならないという形で総合的に考えていかなければならないと考えております。これらを再確認すれば設計内容、建設スケジュールに関しては、従来のスケジュールどおり進むべきであるということが判明すると誰でも理解できると我が会派は考えております。

そしてコストに関しては、建設時期がずれば、その時期の建設の物価によって大きく変わる可能性はあります。そこでコストを先に大枠をかけて考えるのか、必要面積が必要な機能を積み上げてそれをもとに庁舎建設を考えるのかと、どちらかではいかなければなりませんけれども、大枠としてのコストを考えた場合、設計の仕方というのは非常に難しいものがあり、またその結果が必ずしも正しい結果が得られるということにはならないということを踏まえたうえで、また過去の市民検討委員会や基本構想、建設調査等の経過も含めてそれは決めていかなければならないと考えております。

そして設計変更した場合、例えばものによってはプロポーザルコンペを破棄するというのであれば、その前段まで戻らないと、これはプロポーザルコンペに参加した落選をした方々についても、プロポーザルコンペのとおり進むということで自ら落選したということであれば納得できるかもしれませんが、そのプロポーザルコンペ自体が無効なものということになれば、これは私の私見であるので当たっているかどうかわかりませんが、落選した4社から市に対する損害賠償請求といったものも当然考えられるというふうに思っております。こういったリスクも含めた形で、また費用対コストを勘案したうえで決めていくべきだというふうに考えております。

追加で申し訳ありません。建設コストを下げるということは、例えば水に対する考え方、いわゆる庁舎としての必要条件とは言えない水の貯留の問題とか、それから風の問題、また太陽光発電とかそういったものを考慮したうえでいくのか。また工事はある程度を進めなければ調査をしなければ判明しなかったはずの杭の関係で建設コストが上がっております。また東京都の水害関係の、基本設計後に変わった与えられた設計条件というものが変わっているということも含めた形で、建設コストというものを考えていかな

ければならない。それから、いわゆる設計段階の積算と入札後の金額が一致しないということも考慮していく必要があるというふうに考えております。世間では言われている坪単価でどここの市役所はいくらでできたというものは、これはすべて入札が終わった後の建設コストであるということを我々は忘れてはならないと考えております。

◎五十嵐座長　続きまして情報公開こがねい、渡辺さん。

◎渡辺大三議員　まず、1年半ほど前にこういった協議の場が必要なのではないかとということで、一般質問させていただきまして、今日第1回を迎えることができたことに関して、設置に努力された関係各位に敬意を表するものです。そのうえで申し述べます。

まず、設計の見直しに関しては、清掃関連施設を除却したうえで着工することを前提に、建物全体を北側に移動し、建物の形状もL型ではなく、直線型とする。このことで建物の南側に3,000㎡の広場を確保し、福祉会館部分に関しても南面とすることができます。また、敷地全体を浸水対策をする。また建物全体を免震構造にする。さらには市民から陳情書も出ておりますが、議場の市民利用を可能にする工夫を設計の見直しの中でしていくことが必要だと考えております。

次に建設時期に関してですけれども、清掃関連施設を除却したうえで着工することを前提にスケジュールを再設定することが必要だと考えております。この除却までの間に設計の大胆な見直しを完了し、除却後速やかに着工できる準備を整えることが必要だろうと考えております。

次に建設コストについて申し述べます。清掃関連施設を除却してから着工することで、工事が始まってから終わるまで、つまり工期の短縮を図ることによって、コストダウンを図っていくことができると考えております。また、福祉会館に保健センターの機能が移転することになっておりますので、現在の保健センターは移転床が約2,300㎡生み出されることになっております。これは市の財産ですが、当面の間、この保健センター移転後の床を市役所の分庁舎として活用する。また本庁舎移転後の床を当面の間だけ文書倉庫として活用する。それらの措置によって庁舎建設の床面積大幅に縮減することができますので、コストダウンにつながっていくと考えております。

また、本日補足させていただきたい点がございまして、建設コストの削減ということで、ここに書き漏れておりますけれども、一つには大幅な文書削減が必要だろうというふうに思っております。また自治体DXの効果も適切に反映させていくべきだと考えております。また、将来の人口減少を見込んだ床面積の設定にしていくべきだと思っております。また、地下駐車場に関しましてはコストダウンが強く求められている状況から考えると、地下駐車場はやめると、地上の駐車場で整理していくということになるのかと思っておりますので、その点は今日補足させていただきます。

最後にその他でございまして、この現在開かれているこの協議会の設置に至る経過に関しましては、市報の臨時号や市役所のホームページ、また市議会だよりの特集面や市議会ホームページなどで、市民の皆様にお知らせをしていく必要があると考えております。また、現在開かれているこの協議会の内容についても随時市民の皆さんに情報公開をして進めていくことが必要であろうと考えておりますので、併せて申し述べておきたいと思っております。

◎五十嵐座長　続きまして生活者ネットワーク、安田さん。

◎安田議員 まず生活者ネットワークとしては基本設計まで戻ることにはありえないと考えております。現在の設計を基本として進めるべき、早期着工スケジュールどおり進めるべきと考えます。しかし、今日協議の場が設定されたように、議会の中の一致点を見出すということが求められておりますので、その点を踏まえて、もし見直すのであればということで、こちらに書かせていただきましたが、庁舎と福社会館は同じ構造にする。現設計で可能であれば建物の建設位置を北側に寄せて南側に広場を確保することも検討する。コストカットに資するのであれば、地下駐車場をなくすことも検討。

また、建設時期ですが、清掃関連施設除却後の2025年に合わせることも視野に入れるということも併せて、議会の合意点がどこで一致できるかということについては協力して話し合いたいと思っております。しかし、着工が遅れるほどにコストをの負担は増すと考えております。現設計で進めることが何よりもコストカットに資すると考えております。

また、市民説明においてもしっかりと説明して、市民説明会なども検討しながら、市民への説明を尽くしながら進めていくことが大切だと思っております。

◎五十嵐座長 続きまして元気！こがねい、古畑さん。

◎古畑議員 会派元気！こがねいの庁舎建設問題に関するおおもとの考え方を、設計、建設時期、建設コスト一体となって述べさせていただきたいと思っております。

庁舎等複合施設建設の設計は、庁舎等移転時を自治体DXの根本的推進の契機ととらえ、既存の施設への部局の分散配置やIT環境の整備による事務のペーパーレス化を進め、延床面積の縮小を図り、スリムな庁舎を実現したいと思っております。また建設コストは中期財政計画において市民の生活に支障をきたすことのないように、基金積立額や施策執行額を確保したうえでの建設費を設定し、その範囲内での建設を実施しようという考えでございます。以上担保したうえで最大限早期の建設時期を決定したいと思っております。

ここの文章をただ読み上げただけですが、補足といたしまして、この設計に関しては、自治体DXその中の一端を取れば、ITの推進ですとか、テレワークの推進等さまざまなスリム化をすると必ずやこの既存の延床面積より減ることは臨まれるというふうと考えております。そのうえで新庁舎への適切な床面積を設定をして、新庁舎のあるべきボリュームと言うんですか、そういうものを設定したうえで、そうすると今の耐震構造の違いによる形状の変更ですとか、市民が多く望んでいる南側の広場の確保というものがそちらの方に近づいてくるのかなというふうに思っています。ただ、各会派さまざまなご意見がありますので、そこら辺は少しずつ寄り添いながら、そのような形で進めていけるのがベストなのかなというふうに思っております。

また、建設コストについては、この中期財政計画におけるお金部分の配置というのは庁舎建設よりも大事なことだというふうに思っています。ですので、今後市で行うべき次期施策の積立の基金なり、事務事業の大事な予算額の確保というのを設定をして、いくらあるからいくらで庁舎をつくりましょうという考え方、実際には建設費、人件費の高騰で、そのすり合わせは難しいのかもしれないですけども、考え的には、この金額でつくりましょうという考え方で述べていきたいというふうに思っています。その範囲でこの建設コストというのを、今の計画できるだけ寄り添いながら時期を決定していきたいというふうに思っております。

◎五十嵐座長 最後に緑・つながる小金井、坂井さん。

◎坂井議員 我が会派の意見を申し上げます。

設計については、市民参加や議会での議論を得ながらたどり着き、実施設計まで終わっている状況ですので、現在の設計で進むのが妥当であると考えています。この度、大胆に見直すことも含めた協議を求めてきた西岡市長の判断はちょっと信じられず、許容の範囲を超えております。協議会を経て、これまでの経緯や金銭的な損失を伴っても設計の見直しをするということになれば、それは市長と議会の責任によりますと考えています。市民参加の場を確保し、見直すべき明確な根拠を示し、説明責任を果たすことが必要になると捉えています。

建設時期についてです。早期に建設に入りたいと考えています。これ以上、福社会館の遅れを望まないという市民の声も届いております。改めてになります、本庁舎の耐震基準は、国交省基準の一般的な建物としての I_s 値 0.6 以上はクリアしておりますが、東京都が定めている防災拠点として必要な構造耐震指針について、12 箇所中 3 箇所において 0.9 を下回っています。そして、エレベーターや誰でもトイレもないバリアフルな庁舎でもあります。第二庁舎の賃料は年間 2 億 4,000 万円程度です。分散庁舎は業務の遂行にあたって非効率であると捉えておりますので、これらの課題を早期に解消したいと考えています。

建設コストについてです。現設計ででき得るコストダウンをしていると私は認識しています。92.4 億円かかる建設費を 90.7 億円までコストダウンしているというような認識です。一方で、さらなるコストダウンのためにということで、太陽光パネルの発電容量を減らすなどをされておりますけれども、これは気候危機対策の減衰にもなるようなこととなりますので、やめていただきたいです。改めて認識を共有したい項目が 4 点あります。一つ目が建設時期が遅れたことによって、国や都の補助金を使えるものが新たに出るのかということと、反対に建設時期の遅れによって使えなくなるものはあるのかないのかです。三点目は第二庁舎の賃借料など、延伸により 1 年当たりにより要する経常的な支出額。四点目として、今後の建築資材物価指数の動向など上振れの幅です。

その他については特にございません。

◎五十嵐座長 ありがとうございます。すべての会派のご意見を開陳していただきました。それぞれの会派の意見を聞いたうえでご質問等ございましたらご発言をお願いいたします。斎藤さん。

◎斎藤議員 建設時期やコストは別として、設計内容に関して是正を求める会派が存在するわけですが、次の設計を決めるときにどのように決めるか考えているんですが、要するに今の案はそうは言っても建設計画、建設調査ですか、建設計画調査という形で配置案が示され、それにももちろん賛否あったわけですが、それから市議会が望んだ意見を取り入れたうえで、プロポーザルコンペをやっておりますから、要するにプロポーザルコンペの前までに巻き戻すという考え方をされている方がいらっしゃれば、ご発言をいただきたいというふうに思います。プロポーザルコンペを 1 回やった、過去のプロポーザルコンペをないものにするという形になるわけですから、プロポーザルコンペの後始末といいますか、合法的に常識的にどのようにそれを対策をするのかというのが、まずお聞きしたいところであります。

もし発言がないようであれば、プロポーザルまでは遡らないというふうに受け止めざるを得ないので、議論もそこからスタートしていくと、要するにプロポーザルが無視されないような形での設計変更案があ

ったとしても、その範囲の変更内容ということに自ずからになっていくというふうに思われるので、プロポーザルコンペ前まで遡るといようなご意見がある会派があれば、ぜひご意見を披露していただきたいと思ひます。

◎五十嵐座長 森戸さん。

◎森戸議員 今斎藤さんからそういうご意見がありました。私たちはプロポーザルまで帰るべきだと思ひています。今の案を手直しすれば、コスト削減につながるとかそういうことではありませんし、また新福祉会館と庁舎を耐震構造を同じにすると申したときに、今の設計のままでするのかって申したら私は難しいと思ひますね。そういう意味ではいったん基本設計前まで戻らざるを得ないと思ひます。計画調査は既にやりましたし、いくつかの案は出たわけですよ。私たちは Cre-2 ではなく、B2、横並びの案を主張してきた会派なので、残念ながら多数がそこにいかなかったという点は非常に残念だったと思ひています。ある程度計画調査で建てられるものについての可能性は出ているわけですから、基本設計も含めて、帰っていく必要があるかなど。その際に今の設計施工を分離した形を私たち主張してきました。今早期につくる必要があるということであれば、設計施工を一体としたことも、考えざるを得ないのかなということはあるかと思ひます。

笑ってるけどやめてもらえませんか、そういう笑い方って、申し訳ないけど。というのは、今の冒頭で座長がおっしゃったように、変更があるんだったら変更があるということ認めていくこともやろうじゃないかっていう提案ですよ。だからそれは笑われちゃうと、何っていう話になるんでね。そういう反応はやめていただきたい、私は。はっきり申して真剣に考えて、今私たちも提案しているの。設計施工が一体がいいかどうかっていうのはもちろん検討する必要は十分あると思ひるので、そういう形も含めて、何らかの何ていうか基本設計まで立ち帰る、市民説明も行う。そういうことも含めてやることも検討の一つかと思ひるので、その点をご提案をしたいと思ひております。

◎五十嵐座長 斎藤さん。

◎斎藤議員 過去に行った実施済みのプロポーザルコンペをどのように小金井市として締めくくるかということにもぜひお答えいただければと思ひます。

◎五十嵐座長 森戸さん。

◎森戸議員 プロポーザルコンペで一定の設計会社が参入されて、実施設計までは一応終わったわけですよ。だからここで一定の区切りがついたと私は思ひています。残念ながら、ここまで行き着いてしまったっていう思ひはしていますが。この後、プロポーザルに参加した方々がどうお考えになるかっていうのは、私たちは全くわかりませんので、ここであれこれ申すことはできない。申すこと自体が私はおかしいし、そういうことがどうなんだって聞かれること自体も私はあんまり意味がないなど。もっと前向きな議論をした方がいいと私は思ひるので。ぜひ斎藤さんにももうちょっと前向きな答弁を、答弁というか質問をしていただければありがたいなと思ひています。

◎五十嵐座長 渡辺大三さん。

◎渡辺大三議員 入口から熱い議論になっているんですが、これは熱くなってもしょうがないので、少しクールダウンしていただいて、今日各会派の皆さんの先ほどの意見を讀ませていただいて、合意形成に向け

て非常に骨を折られたなあっていう、つまり従来の見解から微妙にいろいろ内容整理された会派もあって、私としては非常に意を強くするものですが、先ほど斎藤さんから一定の発言もありまして、私は思っているのは、歴史を振り返ってみますと、小金井市議会はさまざまな決議をあげておりますけれども、2年前の6月だったでしょうか、決議をあげております。この決議は、ご記憶の方も多いと思いますが、基礎的与条件の見直しも含めて検討せよという決議なんですね、市長に対して。基礎的の条件の見直しですよ。基礎的條件の見直しということで、基本設計に踏み込んだ見直しになるのは当たり前なので、実は議会はもう2年前に決議してるんですね。そういう歴史的な経過を踏まえてみれば、今日こういう状況になってくると、そこまで立ち返って見直していくということも選択肢の中には入ってくるし、逆に議会はそれを選択肢としてもう2年も前に提示をしていたということなのかなというふうに思っているんで、そこに関してはその後の斎藤さんの後始末論っていうのもいろいろあるかもしれませんが、それはそれできちんと議論しなきゃいけないことなんですけれども、議会としてはそういう意思表示はして進めてきたのではないのかなというのが、歴史的経過に照らせば、そういう経過だったんじゃないかと思っておりますので。市長の方からも、設計や建設時期の大胆な見直しも含めて協議したいということでございますので、その点に関しては、この程度にとどめたいということではなくて、まさに大胆な見直しも含めて、さまざまな可能性を議論していく場なのかなというふうに思っているんで、その点は一つ一つの論点を集めていければというふうに思っております。

最後の後始末論っていうのも私も関心はあるんですけども、それはそういったものがまとまっていく中で一定議論もされていることなのかなと思っておりますので、入口からその話しということにはなりにくいかなと思っておりますが、プロポーザルコンペに関して言うと、例えば設計業者の中で役所、特定の自治体と大喧嘩になるような訴訟を起こすような設計業者がいるのかどうか分からないんですけども、もし事例があるとしたら、こういう自治体でこういうふうに設計者から訴えられた事例があるということであれば、逆にお示しをいただいた方が勉強になるなというふうに思っております。そういう一つ一つのファクトをもって少し議論を積み重ねていけたらなと思っております。斎藤さんの言われているテーマも、なんて言うのかな、議論しないでいいってまで思っておりませんが、今この入口のところはまずそこまで行き着くのかどうかも含めて、別の観点から議論が進んでいった方がよいのではないかなと思っております。

◎五十嵐座長 はい、清水さん。

◎清水議員 部局の方に確認したいことがありまして、令和4年3月の基本構想のときの市長発言で市長がおっしゃったところで、設計や建設の時期を大胆に見直すことも含めてっていうふういでこの場を設けさせていただくと書いてあるんですけども、そういった場合にその大胆に見直すっていう場合に、部局としてどういうことを想定しているのかなっていうのを聞きたくてですね。設計変更と言っても基本的には現在の設計でやっていくって言いながらも免震構造にするとか、いろいろな会派の意見もありまして、どういうところまで踏み込むと設計変更に至るのかとか、設計変更になった場合にはどこまで戻ることを想定しているのかっていうことを、まず今想定している中でおうかがいをしたいなと思っておりますので、もしお答えできればお答えいただきたいなと思っております。

◎五十嵐座長 担当課長。

◎前島庁舎建設等担当課長 わかる範囲ですけれども、大胆な見直しというのは皆さんのご意見を聞かないと分からないというのが事実なんですけれども、今の実施設計をいかせなくなるような変更が生じれば当然基本設計、基本計画まで戻んなきゃいけないと思っています。なので結果的に皆さんのどういった一致点が見出せるかは別としても、今の実施設計にこだわる必要がなくなれば、当然基本設計まで戻ると、そういう考えかと思っております。

◎五十嵐座長 清水さん。

◎清水議員 ありがとうございます。ということはおめんなさい、まだ具体的な細かいことまでは想定されてないと思うんですけど、例えば総免震にするとか地下駐をなくすと、そういう場合になったら、確実に実施設計をいかせないものになるなど。違うなら教えてください。

◎五十嵐座長 担当課長。

◎前島庁舎建設等担当課長 これまでの間に実施設計をやっている中で意見を聞いたことはあるんですけど、同時竣工とか総免震とかそのぐらいだったら設計はいかせるというふうなことは聞いてます。ただそれで更にコストダウンとかそういうふうになっていくとまた話しは変わってきますので。なかなか難しくなってくるかなという思いですね。ただ、大きく形が変わらなければ、そういったことは可能だと思っております。ただ、何回も言いますが、コストが今度は逆に増えてしまったりとかいうことがあると思われまますので、そうなってくると今皆様方から言われているようなことには、逆に今の設計を変えていくだけでと順応できないかなと思っております。

◎五十嵐座長 清水さん。

◎清水議員 ありがとうございます。私も初めて聞いた話だったので。地下駐なり総免震なりになったとしても。今の実施設計をいかせるけど、コストダウンっていう部分になってくると難しいということで、これからいろんな。同時竣工と耐震化、地下駐車場。

◎五十嵐座長 地下駐は入っていませんでした。

◎清水議員 はい、すみませんでした。ありがとうございます。ちょっとまた考えて質問したいと思います。

◎五十嵐座長 ほかにご質問、ご意見ございますか。坂井さん。

◎坂井議員 今のことに関連して、もし分かれば、部局の方に教えていただきたいんですけど、竣工時期や耐震については、今の実施設計をいかしながらできると。もしその場合に、聞いていたらいいんですけど、どれぐらいお金があがるのかとか、実施設計をいかせるとしても全くそれでいかせるわけじゃなくて、ちょっと手を入れる必要が出てくると思うので、時期と金額についても何か把握されていることがあったら、参考に聞かせていただけますでしょうか。

◎五十嵐座長 担当課長。

◎前島庁舎建設等担当課長 ちゃんと計画を精査して細かくしていかないと実際の金額が出ないと言われてます。ただ今使っている免震装置とか、逆に福社会館は強くするためにブレースとか入れてるんですけど、その金額の差だけを考えた数字とすれば、だいたい3億から4億円ぐらいは総免震にすると上がってしまうということは聞いてます。ただ、それはあくまでも実際に工事したというか、設計したらどうなる

かっていうのは設計してみないとわからないというというのが正直なところですよ。

時期は当然構造のこともやり直すので、設計にある程度、これも簡単に見積もっての話ですけど、3か月ぐらいかかるんじゃないかっていうプラス大臣認定というのがありますんで、それをやるのにまた6か月ぐらいかかる。だから最低でも9か月というのは話しとしては聞いてますけれども、プラスアルファです。あとはもうどうなるか、やってみないとわからないっていうのが実際なので、今申し上げた範囲だけで判断をするのはなかなか難しいと言われてます。

◎五十嵐座長 他に質問やご意見ございますか。斎藤さん。

◎斎藤議員 自民党さんは先ほどの私の問いかけには答えなくて、別の質問ということでもいいですか。プロポーザルの前まで戻るべきだというのは、共産党さんと情報公開さん、意見表明されたんですが、他の方はそこまでは少なくとも戻るという考えではないということでしょうか。

◎五十嵐座長 はい、渡辺さん。

◎渡辺大三議員 私は誰がどういう質問するかまったく自由だと思っているし、誰がどう答えるかも自由だと思ってるんですが、少なくとも答えない故をもってこうだというような議論の仕方を見ると、今後そういうやり方でこうこうだけけど答えない会派は私が言ったことを認めたんですねっていうような議論のやり方はあまりよくないのではないかと。発言をもって判断するならいいんですけど、しない故をもってこうだというような議論の仕方がこういう場にはなじまないのではないかと。座長において適切に整理をしていただきたいと思えます。

◎五十嵐座長 森戸さん。

◎森戸議員 私も同じで、今日突然そういう話しをされても、各会派そんなに詰めてきてるわけじゃないと思うし、ここで出なかったからこうだっていう決めつけはよくないというふうに思えます。どこまで戻るのがかっていうことは、もっと設計内容だとかいろんな議論をしながら考えていくことであって、ここで設計、計画調査まで戻るのが、基本設計まで戻るのが、そういう議論を始めるっていうのはあまり生産的な議論になっていかないなあと思っているんで、その点はぜひ座長としても整理をしていただきたいなというふうに思えます。

◎五十嵐座長 斎藤さん。

◎斎藤議員 それぞれがどのように考えているか分からないと、その方々との話し合いもすれ違うということで、同じ設計変更の中でも同じ設計者が処理できていく設計変更の仕方と、設計者自体が変わらざるを得ないような変更に戻すということになれば、根本的に議論の仕方が違うんですね。ですから、人体で言えば表面上な皮膚のことをいくら言っても骨組から変わってしまえば、皮膚のこと言ってもあまり意味はないし、やるとすれば基礎の部分から、建築で言えば基礎の部分から地盤のところからどうなっているのかということ協議しなければ、その上の建築物は建っていかないということになりますので、ぜひそういう認識を持っていただければと思えます。

◎五十嵐座長 清水さん。

◎清水議員 お答えする前にいろいろすいませんでした。ここに会派でまとめられている意見にもあるとおり建設コストのところ、やはり私たちの会派が最初から指摘をしてきているというのが建設事業費なん

ですよ。なのでやはりそこが市民生活に与える影響を与えられない、あと今後の財政運営に影響がない建設事業費っていうところを核にしていますので、そこをまずはこの協議会の場で詰めていきたいと思っています。そこでもしやっぱりその建設事業費の中でコスト削減が必要になってくるっていった場合に、坂井さんのところもあったけど、今の設計の中ででき得るところのコスト削減、今もう行われているわけなんですけれども、例えば5億10億とか、そういった設計コストダウンが必要になってくると、たぶん設計変更というものが必要になってくると思うんですね。だからさっき私質問したのがどこまで設計変更なのかっていうところで、そして総免震と同時竣工とかそこら辺は今の実施設計でいけるんじゃないか。ただ総免震にすると3億ぐらいっていうコスト増もあるって聞いているので、答えになってないかもしれないですけども、まずは建設事業費に影響のない範囲でやっていくっていうところが一つの回答です。結果的にコストをもっと下げなきゃいけないってなったら、設計変更になるかもしれないというものが、設計変更も含めて検討すべきっていう設計のところにかかれているところというのが、今できる回答です。

◎五十嵐座長 斎藤さん。

◎斎藤議員 森戸さんや渡辺さんからそういうご意見があったんで、質問を変えたいと思うんですけども、今の設計者をもって設計変更を皆さん頭の中で考えているのか、設計者そのものを変えていくんだと、先ほど森戸さんからデザインビルドという話がありましたから、設計者ごと変えるという認識なんだろうと推測ができるんですけども、皆さんの中でどういう認識でいらっしゃるのか、どの程度変更すれば、現設計者のもとでできるのか、もしくは新たな設計者を選定し直さなければいけないことになるのかということ、答えるも答えないも今のお二人のことがありましたから自由だと思いますけれど、どういう認識を持たれているかということをご希望したいと思います。

◎五十嵐座長 はい、渡辺大三さん。

◎渡辺大三議員 私はさっきも言ったとおり、質問とか発言は自由というのが大原則において、たぶん複数のメンバーがいる会派の方、独断で答えられないですよ。全部持ち帰りになっちゃうと思うんですよ。あと、一人会派であったとしても、いろいろ関係者がいますから、そこに持ち帰って協議も必要だということ、なかなか今この場で質問されたことに、この場でとんとん答えていけるのかっていうと、答えられる人は答えられますけれども、答えられない人も当然出ているのは仕方ないことなのかなと思っていて。だから何か宿題にするなら宿題にして持ち帰るしかないんでしょうけれども、整理をしながら進めて。この場ですぐにどうなんだって言われて、はいこうだって答えられる会派がそんなにあるとなかなか思えないので、進め方にそこら辺の工夫があるかなと思います。

◎五十嵐座長 小林さん。

◎小林議員 今後日を変えてでも行政側のさまざまな見解などももう一度真摯にうかがいながら、我々も意見交換していく必要があると思います。議会改革などの議論のときもそうなんですけど、あまり最初に自分たちはこうだということを断定的に言うてしまう、また質問の答えによってさらに固めていってしまうと、今後の議論がなかなか柔軟に意見を歩み寄ることがしにくくなる可能性もあるかなと思ひまして。本日は始まったばかりですので、その辺も配慮していただければなと思います。

◎五十嵐座長 質問する方は配慮してお願いいたします。白井さん。

◎白井議員 いろんな意見があるべきだろうなと思いますし、これはつぶやきとして聴いていただければいいんですけれども、確かに渡辺さんおっしゃるように、意見交換の方になるんですけど、質問に対してなかなかやっぱり複数会派は答えにくいとか詰め切れてないケースもあると思うんですけど、詰め切れてない内容でも全部持ち帰りにしちゃうと、協議の場って一体何なんなんだっていうふうになるし、もし持ち帰りばかりやっていると結局なんの協議も進まないの、何を質問するかって言う点は課題として与えられましたけれども、発言する側もさっきこう言ったけれども会派の中では見解が違うのでとかっていうことも含めて、もう少し自由に意見交換しないと、この協議の場がなかなかいかせないと思うんですよ。だから一つ言ったことが、もう全部それを捉えて、なんかさっき言ったじゃないかみたいな詰め寄るようなやり方はたぶんやらない方がいいと思って。とは言え、あんまり軽率な発言ができないっていうのもわかるんですけど、その辺はファジーにもう少しできれば、この協議の場がいかされるんじゃないかなとは思いました。

あとは提案なんですけども、結局なんでこうなったの、協議の場を持つことになったのかっていうのは、この間の経緯を冒頭で述べられた感じなんですけど、結局コストお金の問題だと思うんですよ。だから、齋藤さんの方からはあんまりバジェットを設定すると適切なものが建たないっていうご意見があったので、それはそれで受け止めたいと思うんですけども、なんだかんだいくら出せるかっていうところを決めないと、内容が決まらないと思うんですよ。例えば年収が仮に 500 万円の人が 2 億円の家を建てるかっていうと絶対建てないわけじゃないですか。当たり前のお話です。だってお金出せないんだから。出せないまま建てるわけにいかないわけですよ。こうあればいいって積み上げると、いいもんすごいものができあがってしまう。お金が潤沢だったら別にそれでいいんですけれども、結局やっぱり財政的な課題があるっていうことがこの間指摘されてきて、我が会派もお金のことしか言ってないんですよ。設計の変更は別に求めてないですから、もともと。だからいくらだったら建てられるのか、小金井市はっていうところをちゃんと目線合わせをして、そこから内容を詰めていくっていう方法をやらないと、いつまで経ってもそれぞれの会派の意見を言って終わりになっちゃうと思うんですよ。だってここまでしか出せないよっていうのであれば、その中でやりくりするしかないじゃないですか。皆さんもらっている給料の中で、例えば 30 万しかもらってないのに、毎日飲み歩いていけないでしょ。誰かの話してるわけじゃない。誰かはもうちょっともらってますからね。だからあるお金の中でやりくりをするっていう考えにならないと結局何も進まないと思うんですよ。だから小金井市はいくら庁舎にお金をかけられるのかっていうところを議論しないと、たぶん永遠に堂々巡りの議論することにならないかっていうのは、僕は危惧しているところなんです。そういう意見だけ言わせていただきます。

◎五十嵐座長 齋藤さん。

◎齋藤議員 白井さんのそういうご意見、ある一面ではそのとおりだというふうに思うんです。ただ小金井市とすると、かつて第二庁舎に 6,000 ㎡の庁舎の家賃を 35 年間にわたって、あと数年に入れると 78 億円支払っているという状況もわかったうえで、それを含めた形で協議すべきだというふうに思ってます。それで言うと、今回の 12,000 ㎡プラス福祉会館の建物が 90 数億というのは決して高い建物じゃないと、また小金井市が出せない金額ではないという私は認識しております。

◎五十嵐座長 白井さん。

◎白井議員 私の発言が設計変更を前提にしているわけではないので、そこだけ誤解のないようにお願いしたいんですね。もともとは今の設計で我々も許容してきた立場ですし、どちらかというと財政計画の方を見直せって言った方ですから、そこをやってくれなかったのもうこうなっていると僕は思ってるんですよ。それをやって欲しいんです。ただ、それもやっぱり動いてくれないので、場合によってはじゃあいくらだったら出せるかっていうことをやっぱり目線合わせをある程度、きちんといくらってというのは難しいかもしれないんですけど、財政計画も何もいじってくれないんだったら、じゃあ庁舎としてかけれるのはこれだけだよっていう、そこをきちっと決められないとしても、ある程度目線合わせをしておかないと、たぶん繰り返しになるかなというそういう思いでしたので、なかなか強者ぞろいの小金井市議会ですから、いろんな意見が飛び交うと思うんですけども、議論の協議のやり方とか、交通整理はすみませんが、座長、副座長の方でお願いしたいと思います。

◎五十嵐座長 はい、森戸さん。

◎森戸議員 今建設コストの問題があって、これは相当いろいろ分析をしないと難しいなあ。中期財政計画で出ている現状約91億円の財政計画で見たときに、どうなるのかっていうのがあるんだけど、それだけ見てもダメなんです。それ以外にかかるいろんな経費があるわけだから、清掃関連施設もあるし、それから大規模改修、小中学校の増改築含めて、その中でどうあるべきかっていうのは考えなきゃいけないので、それはきちんとテーマを決めて話し合う時間は作った方が私はいいと思ってます。それぞれが調査をしたり、研究したりしたものをここで出し合って議論するっていうのは一つかなっていうふうに思うわけです。

それが一つと、私一番大事なのは、いつから建てていくかという建設時期の問題だと思うんですよ。清掃関連施設を撤去してからとか、その1年後とかいろんな意見があるわけで、その状況が決まれば、設計のあり方なども変わってくるしということもあるし、いろんなことができるのかなと思っていて、皆さんの先ほどの見解も聞かせていただきましたけど、清掃関連施設除去後に合わせてやってもいいんじゃないかっていう意見もあるわけだから、そこがまとまっていけばね、また違うやり方も出てくるなあっていうものもあるし、その辺りを整理して議論をしていった方がいいんじゃないかというふうに思いますので、座長の方で整理をお願いしたいと思います。

◎五十嵐座長 渡辺大三さん。

◎渡辺大三議員 今の森戸さんからあったのは、議論の進め方としては割り方合理性が高いと思っております。例えば清掃関連施設の今回出された各会派のご意見を見ても、すべての会派じゃないですけども、清掃関連施設を完全に除却してから着工しようという考え方に理解を示している会派が大きい会派も含めていろいろあるなと思っています。もし仮にそういうことで、全ての会派が一致できないまでも、もしそれで多くの会派がそういう方向性を共有できると、そのことによって生み出される時間軸っていうのができるわけですよ。そうすると、その時間軸の中でできるさまざまな見直しの作業ということがどういうものがあるのかにしても、ステップとしては話しが進んでいきやすいということで、今日各会派のご意見を見ていた中で言うと、具体的にどこの設計をどこをどういじるって話しも大事なことはあるんですが、

時間軸の方を先に整理をしていくということから言うと、清掃関連施設の除却が完了したら、例えば遅滞なく着工できるようになっていうところで、ある程度の合意形成ができるということになれば、そこから解きほぐしていける論点もいろいろあるんじゃないのかなと思うので。ただ、この場で今日そこまでいきなりくれないと思うんですけども、次に向けても建設時期の清掃関連施設の除却という一つのキーワード、これでどういうふうに各党派が考えられるか歩み寄れるか、こういうところで議論を進めていった方がやりやすいかと思っていて。あまり設計の各論に入り込んでいっても、それは議論がいろいろあるんで、まず時間軸を正副座長のもとで整理を進めていただけると、ありがたいなと思います。

◎五十嵐座長 小林さん。

◎小林議員 我々の考え方は、こがおもさんが言われてきたことと我々が言い続けてきたこととかなり近いなと思っております。財政的な問題というのは、やはりこれが解消しないと抜け出せない問題ですので、ここに財政いませんので、それは今これを聴いていらっしゃれば並行してその抜け道というものは、出口というものは検討をしておいていただきたいと。場合によってはこういった場でも検討が必要かなと思っております。

そのうえでずっと私議会でも投げかけてきたけども、清掃関連施設除却を待つことでどれだけの効果があるのか。待ったことでどういう建設の仕方、設定の仕方をすれば効果が出るのか、こういったことがなかなか明快な答えが出てこなかったというのは今までの経過です。ぜひこういった場になりましたので、そういったところも、場合によってはお金かかるかもしれませんが、しっかりと精緻な数字出していただいて、全体の予算規模の中でどこがコスパが一番いいところなのかと、その辺りを見出していくということが大切かなと思いますので、述べておきたいと思います。

◎五十嵐座長 沖浦さん。

◎沖浦議員 今の清掃関連施設の撤去後からやった場合とか、どのくらい予算をつけれるのかといういわゆる助言というか、目標額、こういう話してというのがあったうえで、清掃関連施設の撤去というのが今からするとおおよそ3年ということでもいいのかな、もし語弊があれば部局の方から言っていただければいいんですけども、まあ3年という、いわゆる今の第二庁舎の賃借料だけでは、先程会派の意見でも言いましたけれども、7億円強かかるわけですよ。それも例えば財政計画うんぬんという話しであれば、それだっけ入ってるわけだから、いわゆるかかった時間というのは、それもコストでちゃんと計算するべきだということの中で、検討する際にはそういう観点もしっかり入れなきゃいけないよねというまあ部分は申しあげたいと思います。

◎五十嵐座長 はい。白井さん。

◎白井議員 うちの考え方は述べたとおりです。今沖浦さんの話を聞いていて、意見といいますかわかんないですけど、まず第二庁舎のリースに関しては、さっき斎藤さんからおっしゃられたように、これだけ長期間にわたって多額のリース料を払ってきたということは、非常にもったいないということになると思うんですね。ただこれまでの経過があつてそうなっているわけです。沖浦さんおっしゃったように、例えば年額だいたい2億数千万、それが何年かけるという話しがありましたが、庁舎を建てると維持管理費用かかるんですよ。だからものすごい乱暴に言うと、細目が変わるだけで、かかるお金は変わ

らないというか、逆に維持管理費はかかるわけですよ。だから出ていくお金、細目を目隠しして、出ていくお金をみると、別にリース料うんぬんっていうのが、そんなに大きな話しではないと思う。どちらかというところリースの問題で、大きいのは契約の話だと思うんですよね。不確実性があるっていう点のリスクが問題であって、そういう観点で考えると、あんまりリース料、例えば何年でいくらみたいな話しっていうのはあんまり本質的な話しではないかと私は思います。

◎五十嵐座長 渡辺大三さん。

◎渡辺議員 この手の話しは感情論ではなく、数字できちんとしていきたいと思っているんですね。今の話しを総合すると、3年間で払うリース料がまるまる損失だという考え方にたぶん立っていらっしやると思うんですが、あれだけの建物を例えば1年間賃貸してただで借りられるわけがないわけだから、だからちゃんと適正な家賃を不動産価格審査会でも出して払っているというふうに思っているんでね。ただ財産として、私もずっとあの庁舎そもそも借りの時から反対してますけど、長期的に見たときに不利が出るということなんですね。例えば1日100万円まるまる無駄だみたいなこと言った会派も昔ありましたよね、議員さんいたけど、まるまる無駄なわけじゃないです。借りてるんだから、現に使っているんだからね。だから不利益っていうよりもマイナスになってる分はないことはないと思うけれども、全額この書き方だとすべてが損害だというような書き方は、この手の議論をするときにあんまり馴染まないじゃないかと。ただでは借りられないわけだから。だとすると分析しなきゃいけないのは、大規模修繕だったら家主さんやってるんですよ。あと3,000万円資産税入ってました。建物から小金井市に。だから自分で持ったらば3,000万入ってこないでしょう。そういうのがもろもろ全部計算して、実際には1年間延びるとどのぐらい不利が出るのかってことは、もうちょっと精緻な議論をしないとね。まるまる7億損害だみたいなこと書かれて、こういうものの独り歩きは、事実関係からしてあんまりよくないんじゃないかと思っていて。前、実は僕は決算委員会か何かのときだったかな、前島課長にリース庁舎、例えば借りていくのと自前の庁舎を建てた場合で、自前で建てた方が財政運営的に有利に転換するのは何年後なんですかと質問したら、60年後だったんでしょ。今からやって60年後なんですよ、効果が出るのは。そういうことなんですよ、答弁によればですよ。答弁では60年後だって答弁が出てるんですね。そういうことなども冷静に議論しないと。1年、2年、3年、私はもともと借りに反対続けてた議員だけれど、そこら辺はもうちょっと精緻な議論をしないと良くないんじゃないかというふうに考えるところです。大事なことはみらいさんの意見の中で、清掃関連施設の撤去時期を待つて得られる建設コストの削減効果は、3年間の賃借料の7億円に達しないというふうに書いてあるんですが、ということで7億まるまる損害なわけないわけだから、そこはもうちょっと細かく計算して、次回あたり資料で出していただければ、それをもとに少し議論を深めてみたいと思います。

◎五十嵐座長 今の話し、沖浦さん、先になんかありますか。はい、沖浦さん。

◎沖浦議員 今支払っている賃借料が、私は無駄だということは一回も言ったことはございません。ここにいなきゃいけないわけですから。ただ、早く賃貸借契約っていうのを解消しましょうと、そういう話しであって、そこで用いた金額ということで、年間いくらっていう話しがあるんですけども、ここら辺はちゃんと数字は時間がかかればもちろんお金がかかっているっていうことは、もちろん認識したうえで早

期竣工を目指さなきゃいけないっていう意味で、私は賃借料は求めています。なんで本当にどうなのっていう話しであれば、今3年目7億って言ったのが、どのぐらいだ、5億ぐらいにもしかしたらなるかもしれないですけども、会派の意見で言っている清掃関連施設が除去したときの同じ建物を同じ建て方で建てたときに、どのくらいそれで削減ができるかって、いわゆる清掃関連施設がどいている状況で、同じ建物を同じやり方でつくった場合に、どのぐらい費用が浮くかといったら、資材置場がそこに置けるか置けないかぐらいの話になりますよということで、だいたいそれが1億ちょっとっていう話しだったのかなっていう話しで、それはもう見合わないよねっていうそういう経過から、こういう意見を述べていると、そういう形です。

◎五十嵐座長 渡辺大三さん。

◎渡辺大三議員 要するにみらいさんのこの記述の中で、清掃関連施設の撤去時期を待って得られる建設コストの削減効果は、その間支払うことになる第二庁舎の賃借料、仮に3年間待つとした場合、その間の賃借料7億円強に達しないということで直接比較されてるんですよ。分かります。7億円と比較してんですよ。7億の中でも当然借りているわけだから、適正な賃料の部分もあるわけですよ。財産運用不利になってる部分はあるかと思えますよ。だから僕は最初から借りること反対だったんだけど。ただ、7億円とストレートに、3年待つことを比較されたもので出されてくると、やっぱり今みたいな意見も一言申し述べておかないと、こういう数字の独り歩きは冷静な議論につながらないということが一つ。

あと実は公共施設マネジメントの教科書みたいな本がいろいろあるんですけども、その中でたしか愛知県の高浜市の例が挙げられていて、ここなんかは将来の人口減少を見込んだ庁舎を建てるんですね。ただ、しばらくの間、面積足りなくなる分だけはリース契約で借りると。例えば10年、20年だけはリースで借りて乗り切って、20年後にはもうリース庁舎返しちゃうと。そうすればコンパクトな、そのときの人口に適合する庁舎になってるっていうことが、公共施設マネジメントの取組のいい例として紹介されていたりもするんですね。だからダラダラダラダラ借り続けることは当然だめなんだけれども、一定の期間区切って、このことのためにこうするんだっていう明確な方針があれば、それは先進例として捉えられる。小金井のよくないのは、10年間だけしか借りないんだと言い張って30年も40年もなんかやってるのは、小金井市のやり方はだめだと思います。だけど、ちゃんとリース方式、小金井そもそもリースでもないからね、レンタルだからっていうこともあって、そこら辺は総合的によく分析してみる必要があって、7億の金額そのまま持ってきて比較されると辛いなど。そこら辺は細かい数字がもし手元にあるんだったら、次回あたり教えていただいた方が、数字的に正しい議論が進むんじゃないかと思って、それはぜひお願いをしておきたいと思う。

◎五十嵐座長 森戸さん。

◎森戸議員 喧嘩するつもりはないんですけどね。喧嘩になったら申し訳ないんだけど。これからいずれにしても市長がこの間、何ら結論を出さないで来られてきた結果、建設時期は延長っていうか延びたわけですよ。その前の浸水対策のときも、本来なら基本設計時期にわかっていたり、そのところで手立てしてたら半年も伸びることはなかったわけですよ。そういうことの責任を脇に置いて、今回この議会がまた見直すんだから、リース庁舎のことが賃借料どうどうなんだっていうことを議論するっていうのは、私は

あんまり生産的ではないと思いますね。それは市だって責任があるわけですよ。それでここまで延びてきてるわけですよ。だから賃借料をこれだけかかるんだから、そのことを踏まえれば、建設時期の延伸は難しいっていう議論っていうのは、ちょっと私は違うのかなと。なんでも長引けばいいってもんじゃないと思いますよ。ちゃんといつつくるのかっていうのは決めなきゃいけない。それはリース庁舎の契約との関係もあるから、それはやらなきゃいけないけれども、いったん今こうやって協議をしようっていうところに入ったわけだから。この議論でいくと、期限だけ早く決めろみたいな話しになってこざるを得ないなというふうに、議論が違う方向に行くような気がして、そのことは申し上げておきたいと思います。リース庁舎これだけかかってんじゃないかって、それはそうですよ。それは過去の私たち議員にも責任があると思いますよ。私たちは10年リースも反対してきましたけどね。だから、そこの責任問題をずっと言っていけば、切りがないなというふうに思うので、あんまりその議論に入らないようにした方がいいということです。

◎五十嵐座長 この話しの続きですかね。はい、沖浦さん。

◎沖浦議員 庁舎建設に関して最初に具体的なスケジュールっていうのが出たのが、おそらく Cre-2 として建てた場合に平成33年度末竣工とそういうのがあって、令和に直すと令和3年の末なんで、この間の2月3月あたりだったかなと思うんですよ。それからもちろん議会の中でも紆余曲折があって、今に至っているというところの中で、一日でも早く着工にいくべきだっていう、そういう思いは私たちは常に持っているということで、こういう表現にもなっているということで、ご理解いただければと思っています。

◎五十嵐座長 森戸さん。

◎森戸議員 沖浦さんがお考えになっていることがわかります。私たちだって早くリース庁舎やめたいと思いますよ。こんな70何億も家賃を払ってきたっていう、このこと自体も本当におかしいと思うし、早くやるべきだと思いますよ。ただ、中期財政計画で出てきた66億の借金返済などを含めて考えると、毎年4億円以上の借金返済をしなきゃいけない。2億2,000万以上のお金を費やしていきなきゃいけないわけですよ。そのうえにさっき白井さんもおっしゃったように、維持管理費はたぶん今以上にかかってくるだろう。100年でいくらでしたっけ。300億でしたっけ。100年でライフサイクルコストが相当かかるっておっしゃいましたね。100年計画でやってるっていうことで。だからそういうことも含めて考えたときに、確かに2億出すのは本当に大変なだけけど、それ以上の負担がどうなるのかっていうことが全然わかんない中で進めていいのかっていうこともあるので、まあそのあたりは慎重に考えていく必要があるんじゃないかというふうに思うので。ぜひ沖浦さんとも一致をして、いろんな点で見直すところは見直していければいいのかなと思っています。

◎五十嵐座長 沖浦さん。

◎沖浦議員 維持管理っていうのは、借りてようが自分で持ってようがかかってくる費用で、維持管理に関しては今の第二庁舎うんぬんってとやかく言ってません。予算資料かどこかで維持管理費はどのくらいの見積りを立てているかという、本庁舎、第二庁舎を合わせた分よりは逆に安かったんじゃないかなっていう数字が出てたんじゃないかな。僕も探したいと思うんですが、それは部局が答えればいい話だと思います。

◎五十嵐座長 維持管理の費用についてはまた分かったところで、後で答えていただきますけど。古畑さん

すみません、お待たせいたしました。

◎古畑議員 議会のお仲間に入れていただいて、今日が一番楽しい日だと思うんですけども、非常に活発な議論が出て、非常に勉強にもなるし、考えさせられるし、私の思っていることも、随分表面化してきたなというふうに思うんですけども、座長には十分おわかりいただいていると思うんですけど、一番最初でするので、議論の中で次の話題に切口を変えるっていうのはなかなかタイミングも難しいというふうにご承知だと思うんですけど、ぜひ広く他の議員さんにも意見を聞けるような雰囲気づくりをお願いしたいなというものが一つと、あと3項目、設計、建設時期、コストとなりますけれども、その中で細目で、レイアウトの問題だとか、地下駐車場の問題ですとか、広場の問題ですとかさまざまな枝葉が出てきますので、そこら辺も行ったたり来たりっていうことになると思うんですけど、例えば今日は4時間、5時までやってる時間ありますけど、その中で今日じゃないんですけども、例えば財政のことですとか、市民の一番要望の多い広場のことですとか、レイアウトのこと、清掃関連施設との整合のことだとか、一つテーマを30分でも1時間でも切りのいいところで、いずれにしても行ったたり来たりなのかもしれないですけど、そこら辺、よきタイミングで采配をはかっていたいただければありがたいなというふうに思いました。

◎五十嵐座長 今日はそれぞれの会派の意見に対してとりあえずご意見を出していただこうと思ってまして。次回以降は、例えば今日は設計についてみたいな形で、ポイント絞って質疑していきたいと思ってますので、よろしく願いいたします。小林さん。

◎小林議員 私から一つだけ質問したいと思いますけれども。我々も含めて現設計を一定評価はしながらも、こういった場も尊重して議論をしていこうという会派が多くいらっしゃるかなと思っている中で、みらいのこがねいさんですとか、市民会議さんはこのままいこうということで書かれているわけですね。それで市長に質問というか、その2会派に何かご意見があれば、質問していただきたいと思うんですけども、市長の方から、これまでの設計及び建設の時期を大胆に見直すことも含め、協議することをお願い申し上げますという文章を出されて、1定が閉じられて、この場が設けられているわけですよ。そもそも財政的なことを答えきれずに、こういったことになってきているのかなと思うんですけども。こう書かれているけれども、私が大胆に議論してくれて言ってるのだから大丈夫なんですよってことがあれば、言ってもらった方が議論のスタートとしてはスムーズかなと思うんですけども、いかがでしょう。

◎五十嵐座長 市長。

◎西岡市長 最後に私の方からの発言のお時間をいただきたいと思っておりますので、まずその前のご質問ということで、小林議員からのご質問です。今日の段階で私の方からご断定的なことを申し上げるのは非常に難しいと思っておりますが、各会派の皆様方からの現時点でのご意見を率直に出していただいたものだと思っています。

市長といたしまして、第1回定例会の中で、今後の新庁舎・仮称新福祉会館建設の実現を図るためには、市議会の皆様方との合意形成が欠かせないと判断いたしましたので、市長発言を行わせていただき、そして大変ご検討いただき、ご協議いただきまして、本日の協議会を迎えさせていただいております。この状況の中にあっては、現設計を評価し、現設計で進めるべきだというご意見があること自体を私が否定をするような考え方は持っておりません。今後の皆様方との意見交換を通じて、私たちも出されたご意見や

ご質問に真摯に応え、検討し調査をしながら一致点を見出していけるように努力していきたいと、現時点では考えているところであります。

◎五十嵐座長 小林さん。

◎小林座長 市長は、大胆な変更も含めてって言われて、与党の会派がこれだけ断定的なことを言われて、ダブルスタンダードじゃないですか。二枚舌でこの場をさーって言って、異例の協定書まで結んで開いて、この後良い答えが出てくるんですか。デキレースをするわけじゃないだから。これっていうのは部局はどこまで認められてこの流れになってるんですか。今のようなご答弁があってからあえて聞きますけど、明快に答えてください。

◎五十嵐座長 市長。

◎西岡市長 私たちの中でまだ議論もしていない段階で、部局はここまでやろうと考えているようなそういう庁内の検討は進めていません。あくまでも市議会の皆様方との意見交換を通じながら、一致点をこれから見出していきたいと。一方で後段にも発言いたしますが、中期財政計画の見直し作業というものもありますので、こういったものと設計、建設時期、コスト、こういったものの意見交換を通じながら一致点を見出してまいりたいと考えております。

ただ、私としては第1回定例会に実施設計の案で予算を出したいということを11月に申し上げ、積み上げてきた立場である、これまでの経過があるということは、これは拭い去ることができない事実ではあります。ただ一方で、その事実の中では一致点を見出して予算上程に至れなかった、16名の方々から確認申請を進めるべきではないと、こういうご意見をいただいた現状を踏まえて、今日の日を迎えていますので、私としてはこれから市議会の皆様方との議論を通じて一致点をなんとか見出して、早期の新庁舎・仮称新福祉会館の建設につなげてまいりたいと、今日はそういう思いであります。

◎五十嵐座長 小林さん。

◎小林議員 明快に答えてください。1問目だけ。だから市長はそうに言われるけど、与党の会派からは現行でいくべきだと言われているのはダブルスタンダードではないですか。マルなのかバツなのか。

◎五十嵐座長 沖浦さん。

◎沖浦議員 与党の会派がうんぬんって言われると、この協議の場に臨むにあたって、今までは現設計でよしと言って、まずその表現をさせていただいて、会派の意見としてでも検討するにあたって200文字以内で、こういう部分を検討するっていうのもありだよっていうのはちゃんと示してあると思っております。じゃあこう書いてあるから、一番初めの座長の話のように、こう書いてあるから、もうこれ以上譲れないっていうところとか、そういうところをいろいろつつきあうわけじゃないんだよねっていうところはご理解いただければと思うんですけれども。それは協議の中でいろいろ修正している部分だってあるし、いや絶対やっぱここだよっていう部分だってあるのかなと思いつつ、200字の中にはこれだけのことを書かせていただきましたという感じなので、それを会派以外の誰かと協議して、こういうのを書いてあるとか、そういう経緯はございませんので、ご安心いただければと思います。

◎五十嵐座長 小林さん。

◎小林議員 よく協議して出してください。協議して出されてないことがご安心できませんけれども。今日

200字200字って言われたけども、何回も沖浦さん発言する機会があったわけですから。それを私ずっと聞いていて、今のような感想を改めて思ったものですから、市長に何度も確認をしてみましたので、それ以上のことは。

◎五十嵐座長 渡辺大三さん。

◎渡辺大三議員 大前提で、今一定の議論になってるんですけども、二元代表制のもとでありますので、市長が風邪引いたからってとって、みらいさんがくしゃみするわけじゃないってどっかで言ったよね。なので、基本的に市長とみらいとの関係性は我々よりはタイトなんでしょうけれども、全く同じものというものではないというのが、二元代表制のもとでの前提としてはあるかなという中でも、今回みらいさんから出されてきたこのご意見を読んでも、日本語っていうのは読み方によって何とでも読めるんですが、設計条件の決定過程を尊重してきた立場であり、基本的には現設計了承していると書いてあるんですが、現設計でやれとは書いてないんですよ。基本的には現設計で了として、最後に至ってはコストダウンや利便性の向上につながる提案があれば検討したいとまで書いてあるわけですから、その点に関しては留保されていると。また建設コストに関して、床面積の削減の検討に絞るべきだと書いていろいろあるんですけども、コストダウンの方策について必ずしも可能性について何かこれはダメ、これはダメということが書いてあるわけではなくて、現時点での考えが示されているだけなのかなと思っています。市長を応援する立場という中では、私としては日本語の読み方は難しいけれど、まず最初の初手でここまでの書き方になっているのは、そこは少し理解を我々もしたうえで一緒に議論していきたいなと思っています。

公明党さんの気持ちも分からないではないんですが、市長とみらいさんがぴったり符合してないとおかしいって言うと、二元代表制上もおかしいことになっていくので、そこはお互いに少し理解しながら進めていった方が良くないかなと思っています。

◎五十嵐座長 小林さん。

◎小林議員 一言だけ。大三さんが言われたようなご懸念の観点での指摘ではないんです。日本語難しいなと思いますけれども、市長に対する質問でありますので、改めてそのように申し上げておきたいと思えます。

◎五十嵐座長 森戸さん。

◎森戸議員 さっきから建設時期については、一致とは言わないけど、ある程度議論ができるんじゃないかという話しをしてきていて、できるんだったらその議論を深める必要あるかなと思っているんですよ。公明党さんにうかがいたいんですが、資材の高騰もあることも承知したうえで1年程度見送ることがベストか、清掃関連施設がなくなってからを見越した設計見直し着工することがベストなのか、専門的知見をうかがいながらとあるんですけど、これはどういうふう考えたらいいかなど。専門的知見がないと、出せない結論なのかなということ。それから専門的知見は何を考えていらっしゃるのかうかがいます。

◎五十嵐座長 小林さん。

◎小林議員 専門的知見は必要だと思います。我々は素人集団だからですね。これは先ほど沖浦さん言われたように、資材置場で1億数千万の効果しかないという見解をどっかで聞かれたことがある、表かな、そういうことがあったということもありました。私も精緻な数字を求めてきたんですけども、私が納得

いくような数字がなかったわけですね。だから、いずれにしてもその辺を本当に延ばす、我々も清掃関連施設がなくなってから落ち着いて建てた方がいいという考え方があるということは、かねてから言ってきましたけども、一番大切なのは必要な財政フレームの中の落ち着きの話しですから、それを行うことによって、かえってコストが上がる、コスト削減の負担がさらに大きくなるということであれば本末転倒でありますので、専門的な考え方を聞きたい。専門的な意見がなんなのかっていうのが、それは申し訳ないですけど、今わかりかねます。担当の営繕課の細かな説明で納得いくものがあるのか、それとも市の方からCM業者などに見積っていただく必要があるのか、そこは納得いくの数字が得られるのならば、どのような方法でもよろしいかと思う。

◎五十嵐座長 渡辺さん。

◎渡辺大三議員 今の関連。森戸さん今のやり取りの中、小林さんとのやり取りの中の関連なんですけど、資料などが無い中で議論するよりも、例えば市長の案でいった場合、どうなるかってことはスケジュールは我々の手元にあるんですけれども。例えば清掃関連施設の除却を待って着工すると仮にした場合、その場合には基本設計、実施設計とか、もしそれで直すとした場合には、どういうスケジュールになるのかと、もう一つうちから言わせてもらっているのは、敷地全体を浸水対策するか、あのB案みたいなやり方になるか、そこら辺も。だから、場合によっては、そのなんとかダッシュ、エーダッシュ、ビーダッシュみたいになってわかってくるんですけど、それぞれのやり方によって、どういうあらからのスケジュールになっていくのか。また、従来型でやるかデザインビルドであるかによってもいろいろ違ってきますよね。こういうものをきちんとスケジュール表みたいなものを作って、精緻に分析していかないといけないのではないかと思います。我々も個別に専門家にも聞いてみたいと思うんですけども、そういうものもこの協議会の場でも共有化して可視化して進めていかないと議論が空中戦みたいになってもしょうがないので、具体的にこうやった場合はこういうスケジュールがだいたい想定されるよねとかいうのをパターン別に分けて作っていくことが必要なのではないかと思うので、次回に向けて、そういうことがどの程度できるかわからないんですけど、資料として作っていく必要があるんじゃないかなというふうに思います。

◎五十嵐座長 白井さん。

◎白井議員 今渡辺さんおっしゃってて、やっぱり可視化されたものがあつた方がいいと思って。ただ、うちは繰り返しますが、設計変更を前提にはしてませんので、いろんな意見の会派もいらっしゃいますから、途中でさっき言おうと思って、別の話しになっちゃったので言わなかったんですけど、今渡辺大三さんはスケジュールだけの話しをされたんですけど、結局いろんなやっぱり要素を絡んでくるので、コストはたぶん出せないと思うんですけど、例えば現設計で最短で着工する場合、現設計で清掃関連施設が除去された後、そのままの設計でやる場合、設計変更する場合とか、そういう大きな3つぐらいの項目で、スケジュールとそれによって考えられるメリットデメリットみたいなところを項目をちゃんと設定して、課題を設定して一覧表にまとめるみたいなことをやらないと、たぶんスケジュールを出されても、結局それ以外の課題はいろいろあるわけですから。今もここにもいろいろ書かれていると思うんですけど、ある程度の課題は。あとそこにもれた課題とかそういう項目を全部出して、それを一覧でまとめないと、スケジュールだけでは言えないかなと。今建設時期の話しをされているから、スケジュールっていう話しをされたと

思うんですけど、併せて例えばさっきのリース庁舎の話にいくと、金額の話もいろいろありましたけれども、私が言いたかったのは、契約の不確実性のリスクは高いと思うので、それは延びれば延びるほどリスクが高くなるわけですね。だから、そういうことも含めて、複合的にいろいろ判断できるような材料の一覧表をまとめた方が良くと思います。たぶん部局は優秀ですから、もう実は大方作ってると思うんですよ。だからたぶんさっと出して終わりだと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

◎五十嵐座長 森戸さん。

◎森戸議員 今、渡辺さん、白井さんからも言われたとおりで、ある程度スケジュールを想定したものを作っていただきたいと思います。私は建築営繕のスペシャリストがいらっしゃるわけだから、できないわけじゃないと思ってるんですよ。先ほど白井さんがおっしゃったのに合わせて、デザインビルドでやった場合にどうなるのかっていうのも加えていただければいいなと思ってるんですけど。ということと、メリット・デメリットですね。結局、清掃関連施設があることによって浸水対策が十分にできないということが答弁ではかなり出てきたわけですよ。都市計画の制限解除ができない建物があるのではということなどがあって、それもいろいろと調べてはいるんですけど、メリットデメリットっていうのもあると思うので、部局がわかる限りで構いませんので、作って次回でも議論ができればいいなというふうに思います。

◎五十嵐座長 古畑さん。

◎古畑議員 今の関連というか、私の勝手な思いなんですけれども、例えば今ここがおもさんは、設計変更の前提と言わないという形で耐震構造の統一っていうことが一つ考えられる方法っていうところも書いてあるところなんですけども、部局さんに可能かどうかというか見解というか、本当に別に言質を取るわけでもなんでもありません、どう思うかということでもいいんですけれども、耐震構造の福祉会館を先行着工して、その上に被るような形で本庁舎免震があるということで、私何回も言ってるとおおり、床面積の削減があって、仮にその削減のボリュームと福祉会館の分散化とかで耐震構造部分が全く作らないで結果的に I 型になって、その食い込んだ形になっている福祉会館のところを免震構造とした形での床面積の確保というふうなプランで考えた場合、今の基本設計とか実施設計は設計変更は当然あるにせよ、いかせる可能性はあるかないかというのはどうお考えでしょうか？

◎五十嵐議長 はい、斎藤さん。

◎斎藤議員 白井さんからの投げかけで、森戸さん質疑されているんですが、基本的には白井さんは設計変更を求めてないという状況からの皆さんが言っていることを実現したらどういう金銭的な負担なりリスクがあるかということなんです、森戸さんおっしゃっているのは DB、デザインビルドまで言及していますから、それになると、今の設計者は清算しちゃってるから、それはいいんですけれども、それにそのプロポーザルの前に戻る形で、デザインビルドの会社をどういう選定をするのか、そういう選定をしたときには、プロポーザルコンペを実施して、過去に実施したという状況の中で、金銭的な問題と自治体としての言い方は別に信頼度という問題とすると、どういうことかということも含めた形でそれを検討しないといけないうんですよ。だから、白井さんの方で、今 100 できている設計のうち、表面的な 90 ぐらいいかして、10 とか 15 を変更していくのと、森戸さん言ってるはもう 0 まで戻った形でマイナスまで行ってスタートするという段階なんで、私は比較は必要ないと思うんですよ。できるんだったら、それも含めた形を出していた

だけのなら、出していただきたいというふうに思います。

◎五十嵐座長 森戸さん。

◎森戸議員 私はもともと基本設計を変更すべきだと思っている。基本設計というか、設計全体がとって、設計会社も変えた方がいいと率直に思っています。ですから、変えない場合と変える場合といくつか、変える場合どう変えるのかって中身まではできないから、ある程度その基本設計まで遡ったときにどういうふうになるのかっていうことの資料っていうのは、私は必要じゃないかなと思っているので、その点は白井さんに付け加えてって言ったのは、白井さんは変えないパターンでっていうことですよ。その辺り、私はそうだとしたら変えるパターンも含めてやっていただきたいなと思っています。

◎五十嵐座長 白井さん。

◎白井議員 私の方で言わせていただいたのは、これまでの各会派の意見すべてと、これまでの議論、意見を聞いていて、うちは設計の変更は基本的には求めてないんですけども、現設計をベースとした、今から最短で着工できるスケジュール。あと清掃関連施設が除去したあとに、現設計でそのまま建てるっていうプラン、もしくは設計変更を求めている会派もいらっしゃるんですから、仮にじゃあ設計変更した場合どうなるかということも全部テーブルに出して、それぞれのメリットデメリットを勘案していくっていう、そういう一覧表が作れた方がたぶん話しが早い。まず状況をつかんで、そこの中からどうしていくかっていう議論にスタートできると思うんですね。だから斎藤さんおっしゃったように、仮にその設計変更するとなればプロポーザルやり直しで、それはそれとして特段のリスクっていうのは指摘されているとおり、ご意見としてあるんですけども、それもある意味では大きなデメリットとして期待されるのかわからないんですけど、それも含めて全部まとめた方が議論のスタートになるんじゃないかと、こういう認識でした。

◎五十嵐座長 ということで、いくつか資料。はい、庁舎担当部長。

◎藤本副座長 さまざまなご意見ありがとうございます。今言われたパターンはかなり多いものになるし、表としてもかなり大きなものになってしまうかなと思いますが、ある程度想定したようなものをコンパクトに簡略化して、できるところから部局として作ってみようと思いますので、その辺り作り方についてはまた相談をさしあげたいというふうに考えています。

◎五十嵐座長 沖浦さん。

◎沖浦議員 今副座長の方から資料について検討するというので、そういう考え方で、それはそれでいいんですけども、例えば現設計でいろいろやった場合ということと、例えばプロポーザルまで遡った場合の条件をやるとしたら、一番大きくコスト的に、大きくまずスタート地点で変わるのが、今まで庁舎建設関係の関係費で4億5、6千万は費用として使っていると、この部分のどこまで破棄になってしまうか、そこから辺の部分の数字的な部分も合わせていただければ、それは参考になるとと思いますので、よろしくお願いします。

◎五十嵐座長 はい。またちょっと待ってください。渡辺さん。

◎渡辺大三議員 お金の話も抱き合わせでやるんなら、例えば私が提案している削減プラン全部やった場合は相当下がりますから、それも出してもらわないと不公平だと思います。だってこの市長の案でやった場

合とっていうんだけど、私がやってる保健センターの活用とかいったら、もう面積思いっきり切れますからね、莫大な額の節約になりますから。だったらそれも出してもらわないと。沖浦さんが言ったスペックのものを出すなら、私の言ってるスペックを出してください。でないと不平等でしょう。同じ比較できるようにしてくださいよ、同じ土俵で。片方だけでも変だと思えますよ。時期がずれるだけでコストアップって言うけど、私の言ってる縮減やったら相当下がりますよ。面積削減が一番効くんですからね。みらいさんも書いてるとおり。そういうことも含めて平等に比較できるようになんだったらオッケーです。ただ、一つの会派の考え方で、その土俵だけで資料を作るとおかしいことになっちゃうので、もし作るならみんなが言ってるそれぞれの会派が言ってることをやるとこうなると、こういうお金になるっていうふうにやっていかないと、ちょっと不平等かなと思うので、そこは留意していただいて、もし作るんなら、それぞれの会派の主張に沿ったコスト比較していただきたいと。例えば地下駐車場をやめたらいくら節約できるんだ、延床面積これだけ減らしたらいくら節約できるんだとかですね。こういうふうと比較していかないとちょっと不平等だなんて感じですね。そこご配慮いただきたいと思います。資料を作ることは否定しません。作るんなら平等にやってください。

◎五十嵐座長 コストに関しては、また次の機会にどういう形かあれですけど、次の形にさせていただきます。はい。古畑さん。

◎古畑議員 あと忘れてはいけないのが小金井市民の要望の一番っていうのは確か南側の広場の確保だと思うんです。ですので、もちろんコスト、レイアウトも大切ですけども、広場の確保状況っていうのもメリット、デメリットを明記していただきたいと思います。

◎五十嵐座長 はい、渡辺大三さん、

◎渡辺大三議員 結局、今の話しも大事なポイントなんですよ。例えば 3,000 m²の広場を別に土地買ったらいくらになるんだと、こういうことだってコスト計算するうえでは平等に比較するならやんなきゃいけないことになっちゃうんで、そこまで分け入っていくかどうかに関しては、あえてここで明言しないんですけど、コスト比較っていうのは非常に多面的だから、非常に難しい面があると。今古畑さん言われるのは当然で、じゃあ 3,000 m²の、前どこかも言ってましたね。別に広場確保ってどこにそんな土地があるんだぞって、買うのかって本当に、金もないのって。だったら庁舎建設の中で確保しちゃった方が買わなくてすむわけですから。で議論になってるわけですよ。非常に複雑な論点になっていくから。コストとなるとさっき座長が整理されたとおりに、コストはまず置いといて、スケジュールの話しを比較できるようにした方がいいんじゃないかなと思うんですけどね。

◎五十嵐座長 ということで、コストに関する件に関しては、もう少し後にさせていただきたいというふうに思います。そろそろ、自由に発言をさせていただきましたけど、担当のほうから何か今日の時点で発言をしておくべきことっていうのは特にはないですか。はい。そうしたら。はい。

◎森戸議員 中途半端になっちゃって、公明党さんからさっき専門的知見は必要だっていうのがあって、建設時期についてそこをどう整理するかっていうのは。

◎五十嵐座長 それは別の日に協議をやりませう。

◎森戸議員 ただ、今私たちはスケジュール示してくれて、部局に投げかけているわけですよ。それと

の関係で、整理はしなくて大丈夫なのかな。

◎五十嵐座長 そのこととは直接リンクしなくてもいいかなと思ひまして。どの専門家っていうのもありますし、もう少し相談させていただいてからと思ひます。次回以降は少しポイントを絞って、項目を絞って質疑をしていきたいというふうに思ひしております。

今日の時点で、特に発言は以上かなというふうに思ひますし、部局の皆さんには各会派の意見が出てますので、これを見ながら、次回以降で結構ですので、何か問題点なり、知っておくべき情報というか、そういうものがあつたらぜひ提供していただきたいというふうに思ひますので、よろしくお願ひいたします。

はい、市長発言ありますか。あ、はい。最後にどうぞ市長、発言をされてください。

◎西岡市長 本日は第1回目の庁舎等建設に関する協議会を開催していただき、熱心なご議論いただきましてありがとうございます。この間庁舎等複合施設建設にかかる今後の進め方について検討してまいりましたが、具体的な方針を示すことができずに、第1回定例会の議会日程の変更までも余儀なくする結果となり、議会運営の混乱をもたらしたことを改めて深くお詫び申し上げます。3月16日の基本構想審査特別委員会において申し上げましたとおり、庁舎等複合施設建設の今後の進め方につきましては、市議会の皆様と市民の皆様と行政が一体になって、一緒に作りあげていくものです。市議会の皆様のご理解とご協力なくして、この事業を進めてことは不可能と考えております。市議会が可決してきた決議や市民の皆様や市議会からの多様な意見を踏まえまして、市議会の皆様と協議を行わせていただくための協議会を設けていただいたことに感謝をいたします。初めての取組となります。この協議会の協定書に掲げられた目的、着工可能な成案を得られるよう、市長と市議会との意見交換を通じて本事業の進捗を図るため、論点を整理することを目的とすると掲げさせていただきました。この達成に向けまして取り組んでまいりますので、なにとぞよろしくお願ひいたします。

庁舎建設に関する協議会は、庁舎等複合施設の着工に向け、多くの賛同を得られるよう市長と議員の皆様とで意見交換をする場と考えております。庁舎等複合施設建設事業にかかる現在の設計の内容は既にご説明しているとおりでございまして、VECDなど可能な限りのコストダウンをはかってきたところですが、そのうえで設計、建設、竣工時期について協議をさせていただき、出されたご意見等につきましては受けとめさせていただき、実現の可能性について検討させていただきたいと考えております。また、今日初めて出された会派からのご意見、既に提出されている資料ではないところでのご意見もありましたので、その点もしっかり把握をさせていただきます。さらに資料要求をいただきましたので、要求者の方も調整させていただきます。今回の会合などにお示しできるように努力してまいりたいと考えております。

一方で、市議会の皆様方からは、中期財政計画の基金現在高見込に示した令和7年度の財政調整基金など、財政の見通しを不安視する意見を多数いただいております。庁舎等複合施設建設の今後の進め方の検討を踏まえ、適切な時期、10月中を見据えまして、財政見通しを示しできるようにします。

また、今後、本協議会におきまして、状況に応じては非公開での開催をお願いすることもあろうかと思ひますので、どうかご配慮お願ひいたします。なお、今後10月末までに向けまして、一定回数の協議会の開催をお願いすることになることが想定されますが、本市の大変重要な事業でございまして、どうかご理解とご協力をお願いいたします。この協議会、公開の場での市長の発言とさせていただきます。

◎五十嵐座長 議事進行ですか、はい。

◎斎藤議員 市長からお話しがあってここで閉めるのかなと思って、次回についてなんですけど、先ほど私が発言したことについて、会派内である程度協議しないと答えられないと、急に言われても検討の時間が無いという話だったんで、大切なところの何点かを項目をあげたいと、ぜひそのことについて会派の中でお考えいただき、一定の見解、その見解が変わったなら変わったで結構なんですけれども、それをいくつか項目を申しあげたいと思うんですが、よろしいでしょうか。ぜひ皆さん検討してください。

過去のことですからいいかどうか別としてお聞きしたかったのが、平成30年6月にCre-2を原案とした基本設計の予算が可決してるんですよ、賛成18、反対5で。これには付帯決議が出てました。付帯決議に関しては14人が賛成反対が9だったんですけれども。その後9月に12名の議員が市長に申入れをして、4項目ですね、これをもとにして、次はCre-2からC3へ方針変更をしたわけですよ。そういう形で市の意思を変えた。設計変更をするような申入れをしているわけですよ。それをもとにプロポーザルコンペがされていて、なおかつそのプロポーザルコンペを前まで遡るような変更を求めるとかということをお聞きしたい。12人の方々にはお答えの準備いただきたいなど。

それから、それ以外の12人以外の皆さんのプロポーザルコンペの考え方なんですけれども、過去にしたプロポーザルコンペ自体が無効なものだというふうに考えているのか、手続上にどっか瑕疵があって、それをなきものにしようとしているのかという、その辺の合理的なお答えというものをぜひ次のときにいただきたいというふうに思っています。お答えいただけるかいただけないのは、その方々の自由ではございますが、一応そのように投げかけておきたいというふうに思っております。

それからもう一つすみません。第二庁舎の賃貸契約ができてないという状況の中で、調停の中で法定更新というところで、相手がいるという状況の中でですね、そうは言っても、いつ頃になれば庁舎ができるというふうに、たぶん行政側からも言ってるんだと思うんですけれども、それが今度無期限いつになるかわからないという状況になったときに、私からすれば調停員に顔を向けることができないというふうに思うんですけれども、その辺の考え方もぜひ各会派ごとに見解を示していただきたいというふうに考えておりますが、いかがでしょうか。一応発言しておきますので、準備される方はしていただき、無視されるのであれば、それはそれで結構でございます。

◎五十嵐座長 投げかけられたのは投げかけられたこととして、発言は自由ですけれども、一応ここで話したい項目というものがありますので、設計時期、それからコスト等についてありますので、それに投げかけられたことにどう答えられるかは、それは投げかけられた方の会派の判断にさせていただきたいというふうに思います。森戸さん。

◎森戸議員 過去のことをいろいろと言いだめると、議論がせつかく3つに分けて議論しようと言っているものがどこかに行ってしまうような気がして、どこかでそういうことを、最後までいいので、自由にこう疑問をもう1回投げてもらってというのはあるにしても、座長を含めてみんなで考えてこの3つの点で議論しようって言うわけだから、そこをきちっと議論するというのを優先していただきたいなと思ってます。10月までっていう限られた中で斎藤さんがおっしゃるようなことをずっと議論し始めると、中身に入れなくなると思うんですよ。ですから、どこかで場所を設けるのはいいと思うんですけど、最優先は3

つのことをきちんと議論するというにしていきたいと。斎藤さんにもそこはぜひご理解をいただきたいというふうに思います。

◎五十嵐座長 斎藤さん。

◎斎藤議員 3つの点を議論するために、議会が今まで何をしてきた、何を言ったか、行政に対してどういう影響を持ってきたかということ踏まえたうえで、次どういうふうに変えるのかというふうに考えなければ、全く意味がないというふうに思っておりますので。我々、私は違うんですけど、議会議員の中で市長に申入れをしたと。市長がその申入れどおりに行ったと。それでプロポーザルをやった。手続的にはいろいろあったとしても、それは間違いだと言えないような手続をして決めてきて、計画、基本設計、実施設計が終わったわけですよ。それを今からその設計内容を変えようという考え方、私はそこをぜひ正していただきたいというふうに思っていますので、当然設計内容に関わってくるところなんですよ。ですから、ぜひ改めて過去どういう経過があったかをお考えくださいということの、皆さんに対する申入れですので、ぜひよろしく願いいたします。

◎五十嵐座長 森戸さん。

◎森戸議員 その話しはこの2年ぐらいずっとされてきた話だし、その都度それぞれが答えてきた話だと思ってるんですよ。それを乗り越えてこれからどうするかっていうことを議論しましょうということで、この場所があるわけだから、そこは斎藤さんもお理解いただいて、みんなで議論していくってことにしていかないと、あんたたちこう言ったんだからどうするんだよみたいな話になっていくと、本当に10月までに終わらせることができるのかなっていうふうにも思うので、そこはお互い十分に考えながら出された結論だと思うんですよ、各党派が。それを受け止めてどうするかっていう議論をしていくってことだと思いますので、私の意見はそういうことであります。ここで二人で議論したって始まらないから、もう去年の10月からかかんがかかんがくがく本会議でもやってますから、ということであります。

◎五十嵐座長 ということで、第1回目の庁舎等建設に関する協議会はこれで終了いたしますが、今日意見開陳をしていただきましたけれども、協議の次第によってはまた皆さんそれぞれまた変更を余儀なくされることもありますので、それも含めて市民のためにしっかりと議論をしていくということを再度ご認識いただいて、今日の協議会を終了したいと思います。お疲れ様でございました。